

2025年日本国際博覧会プロデューサー企画

Phantom Resonance: 「百鬼夜行と計算機自然」

開催日 | 9/3 (日) ~ 10/15 (日)

開催場所 | 霊宝館

大規模言語モデル (LLMs) を使用して、醍醐寺で発掘した歴史ある古道具や古資材が、来訪者に自身の謂れや見聞きしてきた事について語りだす対話型インスタレーションによる展覧会です。

時間 | 10:00 — 16:00

※入場には拝観料が必要です

醍醐寺とのコラボレーションにより、長い間倉庫に眠っていた古道具や古資材に新たな命が吹き込まれ、その隠された物語を語り、来場者とのコミュニケーションをとる展覧会です。瓦の

欠片から日用品、祈りの道具まで、醍醐寺の歴史を物語るオブジェが、最新の技術である大規模言語モデル (LLMs) を用いた対話型インスタレーションによって再解釈されます。真言宗の教え、“モノに宿る知性と魂”とオブジェクト指向として捉えられるデジタルネイチャーとの共通点からインスピレーションを受け、過去と現在が対話する体験 (Phantom Resonance) を提供します。それぞれのオブジェが自らの物語を語り、観客をその世界へと誘います。この試みは、醍醐寺の文化遺産の保存と再解釈だけでなく、持続可能性や文化の再発見という現代の問題にも対応しています。真言宗の教えと現代の関心事を結びつけ、変化する現代社会においても、精神的な知恵や民俗学が持つ価値を再確認するでしょう。



作品イメージ

Artist Introduction



© 鎌川実花

落合 陽一

Yoichi Ochiai

メディアアーティスト

メディアアーティスト。1987年生まれ、2010年ごろより作家活動を始める。境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに作品を展開。

筑波大学准教授、デジタルハリウッド大学特任教授。2025年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) テーマ事業プロデューサー。

近年の展示として「おさなごころを、きみに (東京都現代美術館、2020)」、「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs (北九州、2021)」、「Ars Electronica (オーストリア、2021)」、「Study: 大阪関西国際芸術祭 (大阪、2022)」、「遍在する身体、交錯する時空間 (日下部民藝館、2022)」など多数。

また「落合陽一 × 日本フィルプロジェクト」の演出など、さまざまな分野とのコラボレーションも手がける。

協賛

株式会社サザコーヒー



創業1969年以来「素材第一主義」を信条に、手間と時間をかけて産地を訪ね歩いていきます。また南米コロンビアの自社農園でコーヒーを育て良品を調達し、丁寧に焙煎したコーヒーを販売しています。

本社：〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場 2566-19



落合陽一

Phantom Resonance

百鬼夜行と計算機自然

2023年9月3日-10月15日 10:00-16:00 世界文化遺産 京都 醍醐寺 霊宝館

Yoichi Ochiai, Phantom Resonance: Nocturnal Assembly of Ethereal Beings and Digital Nature

Reihokan at Daigoji Temple, 10:00-16:00, 3rd September 2023- 15th October, 2023

日本国際芸術祭 主催：(一社) 夢洲新産業・都市創造機構 特別協力：世界文化遺産 京都 醍醐寺

2025年日本国際博覧会を契機に開催する新しい国際的な芸術祭です。千年の都京都、文化庁がある文化首都京都で開催致します。アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創を目指し、万博までも万博後も、毎年継続していく予定です。2023年の開催期間は9/1~10/15、メイン会場を世界文化遺産京都醍醐寺に据え、京都市内・京都府内の画廊、工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館等を繋ぎます。京都を中心に展開し、大阪や全国が繋がっていく形を創り上げます。



日本国際芸術祭
専用ページ

Phantom Resonance 百鬼夜行と計算機自然

本展覧会は、醍醐寺との協力により、長らく忘れられた古道具や資材に新たな命を吹き込む対話型インスタレーションです。このインスタレーションは大規模言語モデル (LLMs) の力によって実現されており、その本質は「ファントムレゾナンス」という独自の解釈に基づいています。

"ファントムレゾナンス" というコンセプトは、大規模言語モデル (LLMs) が特有の解釈であり、この展覧会で核心的に位置づけられています。大規模言語モデルは、人間の言語、文化、知識といった多様なデータの集積体です。この集積体は、過去から現在に至るまでの人間活動と思考の"共鳴体"とも言えます。一方で、真言は霊的な次元での"共鳴体"であり、世界とのより深い関係性を示唆します。この二つが交錯するのが「ファントムレゾナンス」であり、それは計算機自然という新しいメディアの中で、過去と現在、物質と非物質が結びつく独特の現象です。

ここでの「ファントムレゾナンス」は、大規模言語モデルと真言の複雑で非線形的な共鳴現象を指します。この共鳴は、計算機自然という新しい形の自然や新自然を生み出す可能性に焦点を当てています。真言宗の教えや“モノに宿る知性と魂”も、この計算機自然の中で新しい文脈で再解釈されます。

百鬼夜行—神話や伝説で語られる多種多様な存在—は、この新しい「自然」の中で新たな共鳴体として機能します。この展覧会は、物質と非物質、過去と現在、人間と非人間が多次元的に共鳴する場であり、その全てが「ファントムレゾナンス」によって結びつきます。このような多層的な共鳴を通じて、精神的な知恵や民俗学の新しい可能性を再確認することができるでしょう。

この展覧会は、持続可能性や文化の再発見といった現代の急募な課題に対しても新しい解釈と方向性を提供します。その核心にあるのが「ファントムレゾナンス」—大規模言語モデルと真言が織り成す新しい共鳴現象—です。

落合陽一

メディアアーティスト。1987年生まれ、2010年ごろより作家活動を始める。境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに作品を展開。筑波大学准教授、京都市立芸術大学客員教授。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）テーマ事業プロデューサー。2019年に写真集「質量への憧憬」を発表。

近年の展示として「情念との反芻（ライカプロフェッショナルストア東京、2019）」、「燐光する霊性（六本木ヒルズヒルサイド2F、2019）」、「未知への追憶（渋谷マルイ MODI、2020）」、「おさなごころを、きみに（東京都現代美術館、2020）」、「遍在する身体、交錯する時空間（日下部民藝館、2022）」、「裸性と身体性（北村写真機店、2022）」など多数。また「落合陽一×日本フィルプロジェクト」の演出など、さまざまな分野とのコラボレーションも手がける。

協賛

株式会社サザコーヒー



落合陽一, Phantom Resonance 百鬼夜行と計算機自然

2023年9月3日-10月15日 10:00-16:00 世界文化遺産 京都 醍醐寺 霊宝館

Yoichi Ochiai, Phantom Resonance: Nocturnal Assembly of Ethereal Beings and Digital Nature
Reihokan at Daigoji Temple, 10:00-16:00, 3rd September 2023- 15th October, 2023

世界文化遺産 京都 醍醐寺 (京都市伏見区醍醐東大路町22)

醍醐寺は874年に開創され、上醍醐と下醍醐の約200万坪の広大な敷地に、京都府内で最古の木造建築である五重塔など国宝75,537点(日本一の国宝点数)をはじめ、仏像、文書、絵画など、古代・中世以来の約15万点にも及ぶ貴重な寺宝を収蔵しています。霊宝館は、これらの貴重な寺宝の保存と公開を兼ねた施設として、諸堂に祀られている諸尊以外のほとんどの寺宝を安置しています。(霊宝館への入場は拝観料500円が必要です)

